

第1期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関する検証会（第1回）
議事要旨

1. 日 時 平成31年1月28日（月）10:00～12:00

2. 場 所 中央合同庁舎8号館7階まち・ひと・しごと創生本部事務局内会議室

3. 出席者（敬称略）

〔委員〕

岡田 豊、牧野 光朗、松原 宏（座長代理）

〔事務局〕

稲山 博司、伊藤 明子、井上 誠一、高橋 文昭、辻 庄市、田川 和幸、
中原 淳、丸山 雅章、大津 俊哉、島田 勝則、山内 孝一郎

4. 議 題

○検証会の進め方について

○まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIの検証について

○東京一極集中の動向と要因について

5. 議事概要

○検証会の進め方、まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIの検証、東京一極集中の動向と要因等について事務局から説明を行い、主に以下のような意見が述べられた。

（1）検証会の進め方について

- ・ 地方創生に関する検証や検討に向けた様々な会議が多く開催されている中で、本検証会はどうのような位置づけになるかを確認したうえで議論を進めていく必要がある。
- ・ 各関係会議の場における議論も共有しながら、本検証会を進めていくべきではないか。

（2）まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPIの検証について

- ・ 資料3におけるKPIの評価区分（①、②、③）については、中間年と同一の基準に基づき、評価区分の①について、目標値を達成したものと、当初値よりは進捗しているがまだ目標値を達成していないものが、同じ「①」という評価になっているが、これで良いのか。例えば、数値の伸び率などを考慮して判断するなど、客観性を持たせて評価する必要があるのではないか。
- ・ KPIの中に、インプット指標とアウトカム指標が混在しているのではないか。
- ・ アウトカム指標の最たるものが、東京一極集中の是正に係る地方・東京圏の転出入均衡という目標になっており、この部分が最も成果が上がっていない。いろいろと政策を打って取り組んでいる中で、これはあまりに厳しい指標だったのではないか。「頑張っても仕方がない」という風に見えるのは非常に残念なので、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向けては、政策の成果を前向きに評価できるような他の成果指標を検討してもよいのではないか。

- ・一部の KPI で、現在値が入っておらず、評価のしようがないものがあるため、KPI の立て方自体についても検証すべきではないか。
- ・数値目標を掲げているもので、現在値が入っていないものについては、正確な数値は取れずとも、何らかの参考値を記載しておくべきではないか。
- ・基本目標 3 について、KPI の評価は①が並んでいるが、実際の人口には反映されていない。第 2 期の総合戦略策定に向けては、こうした施策が地方創生にどんな観点で役に立っているかを考えていく必要があるのではないか。
- ・KPI による進捗状況の確認だけでなく、第 2 期の総合戦略における KPI のあり方についても考えるべきではないか。

OKPI の検証については、事務局と松原座長代理の間で評価方法等の検討を進め、次の検証会で再提出することとなった。

(3) 東京一極集中の動向と要因について

- ・東京圏への転入超過について、近年、女性が男性を大きく上回っているのは、女性の 4 年制大学への進学率が上がっていることが大きく影響しているのではないか。
- ・地方においては、男性と比べ女性が活躍できる職場がまだ足りておらず、女性が東京圏に流れてしまっているのではないか。したがって、地方において、女性にとって魅力的な仕事をつくることが重要ではないか。
- ・特に、地方では従来の働き方を前提として男性を中心に採用している現場があったり、高学歴の女性であっても総合職で入社することが難しいといった例があることから、企業の意識を変えとともに、総合職における男女採用比率を目標として設定するなどの取組も必要ではないか。
- ・分社化により、地方にある程度本社機能に移していた企業が、リーマンショック以降次々と体制を再編し、本社機能が東京圏に集中してきたことも一極集中の要因ではないか。
- ・就職活動がインターネットを介して行われるようになったことも大きいのではないか。大企業に就職を希望する流れがインターネットの就職活動で一気に加速しているのではないか。
- ・東京は、持ち家価格は高いが、賃貸住宅価格は供給量が大量に増えていることから地方と大差がないのではないか。このようなことが若い世代の都心回帰に影響しているのではないか。
- ・今後、外国人材が増加することが予想される中で、地方創生の施策とどう整合性をとり、調和させていくのか考えていく必要があるのではないか。外国人にとって働きやすい職場を地方が目指さなければ、やはり東京一極集中になる可能性があるのではないか。
- ・東京一極集中是正に係る KPI について、東京 23 区に着目する場合は、通勤圏を考慮する必要がある。
- ・通勤時間は非常に重要な視点。東京圏も通勤時間は短くなってきているのではないか。その意味で東京の優位性も上がっている可能性がある。住んでいる近くに仕事があるのが最も良い状態。
- ・いわゆる転勤族の実態が今どうなっているか、関心はあるが、データで見るのは難しい。新幹線の開通等で交通の便が良くなった結果、一つの拠点から用事があるときだけ地方に行くような、いわゆる「出張族」が増えたことは言えるのではないか。

- ・ 本日の議論で出た論点について、データが取れるようなものについてはある程度裏付けをとってほしい。

以上